



No.235

広 報

きたうら

人口と世帯数

1月1日現在

人 口 11,297(+4)

男 5,646(+6)

女 5,651(-2)

世帯数 2,612(+3)

昭和59年1月発行・編集／茨城県行方郡北浦村役場

北浦中で“湖水祭”開かれる 生徒会の…協力と団結…で



1月13、14日の2日間、北浦中学校で初めての文化祭「湖水祭」が開かれました。

この湖水祭は、生徒会（会長椎名正洋君）が中心に企画、実行されました。「生徒会の一員として自覚を持ち、生徒会活動をより活発にする。」「広い視野に立って、学習を深め、学校生活に役立てる。」

「日ごろの文化的活動の成果を多くの人に見てもらおう」などをねらいに、忙しい受験勉強やクラブ活動の合い間をぬって、準備が行われました。

弁論大会、コーラス発表、作品展示、バザー、模擬店など多彩な催しに、生徒も父兄もなごやかにとけ込み、その成功は、生徒たちに大きな自信を与えてくれました。

~~~~~

# 未来に誇れる水と緑に囲まれた 住みよい豊かな村づくりを

~~~~~



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

輝かしい昭和五十九年、子（ね）年の新春にあたり、皆様方の益々のご健康とご繁栄を心からお祈り申し上げます。旧年中は何かと村政に対するご理解あるご支援、ご協力を賜わり心より感謝の念を奉げるものであります。紙上から厚くお礼を申し上げます。皆様方のご支援により、私も二期目最後の新春を迎え心を新たに、村民本位の政治理念を基本に、未来に誇れる水と緑に囲まれた住みよい豊かな水郷田園都市づくりを進めてまいりたいと存じます。

御承知のように、日本の経済は依然として厳しく、政府の基本政策でありました総需

要拡大策をもってしても景気の回復を望むことが出来ず、地方もまた公債比率の上昇によって、財政構造は硬直化の一途をたどっております。そして、かつて経験したあの華々しい経済の高度成長は望めない現状であります。こうしたなかで、国・地方を通ずる簡素で効率的な行政制度を確立して活力ある社会を目指すという行政改革は、いまや国民的な課題であります。

住民一人ひとりの毎日の生活に密着した、総合的な行政を責務としているのが、自治体であります。

住民の高齢化や家族構成の変化、価値観の多様化でありますが、高齢化というのは単に老人がふえるということではありません。活動人口の相対的な減少による活力の低下が重大であります。その反面、長い老後の不安への対処、医療費の増加など、福祉関係の需要の急激な増加も深刻な問題となっております。

これらの急激な社会的変化と多様化した住民意識に因應していくためには、従来よりはるかにきめのこまかい行政上の配慮・運営のさいの創意工夫が要求されてきております。現実の困難な問題に対処するとともに、我々が育てあげてきた実りを、次の世代に向けて、いかに生かすべきかを考えながら、活力ある北浦村の実現に向けて英知と賢明な対応力によって、難局に対処してまいれる所存ですので、どうか、村民の皆様方の一層のご協力とご理解をお願い申し上げます。

村長 河野 晴 雲

自給肥料供給センター、試運転順調

バキューム車は一日33台程度

二月一日から本運転に

昨年十二月六日に試運転を開始した自給肥料供給センターは、その後順調な運転を続けており、二月一日には、予定どおり本運転を開始することになりました。

この試運転期間中には、し尿の搬入状況、施設の運転、管理運営などについて、再検討が行われました。

その結果、し尿の搬入状況は、左の表の通りとなりました。この表からわかるとおり、十二月中には、バキュームカー百二十九台で、二百十四トンを搬入。これは、一日当りにすると、バキュームカー四・

九六台、し尿搬入量は、八・二七トナリとなります。一月になると、この数字も、ずつと減少しました。二十日までの結果ですが、一日当りのバキュームカーは一・一五台、搬入量は一・九トナリとなりました。これらの期間を推算すると一日当りバキュームカーは三・三台、搬入量は五・五トナリとなりました。

また、機械の運転についても、ほぼ正常に行われていることが確認されました。このため、二月一日には、本運転開始とともに、施設の竣工式を行うこととしました。

お願い

自給肥料供給センターについて
○便槽へは、布・綿・かん腸容器・ビニール類、その他固形物は入れないよう、お願いいたします。

自給肥料供給センター し尿搬入量と バキュームカー台数

日	58年12月		59年1月	
	搬入量	台数	搬入量	台数
1		0	0	0
2		0	0	0
3		0	0	0
4		0	0	0
5		0	0	0
6	8.91	5	0	0
7	11.69	7	0	0
8	11.56	7	0	0
9	7.79	5	1.80	1
10	8.24	5	3.48	2
11	2.99	2	9.31	6
12	17.37	10	4.77	3
13	6.65	4	6.84	4
14	5.03	3	0	0
15	8.19	5	4.86	3
16	5.04	3	0	0
17	4.86	3	3.59	2
18	2.37	2	3.35	2
19	9.38	6	0	0
20	6.05	4	0	0
21	0	0		
22	4.95	3		
23	6.52	4		
24	8.51	5		
25	8.76	5		
26	14.09	8		
27	6.66	4		
28	11.97	7		
29	13.90	8		
30	13.07	8		
31	10.43	6		
計	214.98	129	38.0	23
1日当	8.27	4.96	1.90	1.15

試運転開始後 1月20日まで

区 分	搬 入 量	バキュームカー
期間中計	252.98	152
1日当り	5.50	3.30

村では、昨年十二月の村議会にて、北浦村空き缶回収に関する条例」を制定しました。この条例は、県において「茨城県空き缶散乱防止条例」が制定されたことに伴い、この県条例に協力するとともに、村の空き缶の散乱を防止し、住みよい環境をつくらうという目的でつくられました。

この条例では、まず、村民、事業者、および村の責務を定めています。それによると、村民（滞在者も含む）は、空き缶を散乱させないため、空き缶は、必ず家へ持ち帰るか、

回収容器へ収納するよう求められています。また、村民の皆さんは、同時に空き缶散乱防止のための実践活動に参加するよう心がけていただくこと、村の施策に協力していただくことなどが求められました。

県条例とタイプアップ

空き缶条例を制定

4月施行

また、事業者としては、消費者に対する啓発活動を行うこと、容器を資源として再利用できるものへ転換すること、

そして、村の中でも、とくに空き缶の散乱を防止し、効果的な回収を図る必要があると認める区域を、「特定区域」として定めます。この区域内

では、新たに自動販売機を設置する場合の設置届書の提出義務、回収容器の設置義務などが定められました。この条例は、ことしの四月一日から実施されますが、今後、村では、空き缶散乱防止のためのより効果的な施策について定め、また、一方では特定地域をどのへんの区域にするかなどについても検討を加えて行きます。

そして、村民の皆さんにもいろいろとご協力をお願いすることになるかと思えます。この条例制定を機会に、村、事業者、住民、それぞれが一体となって、住みよい環境づくりのため努力しようではありませんか。



愛と信頼

現在高校二年の次男が「ばく部をやめる」。そして、あぐく部の果ては「学校をやめる」といい出したのはつい先日のことでした。高校に入ってからこれまでも何度か朝になると頭痛を訴えて休んだり、元気に学校へ行ったかと思うと途中で帰って来てしまったりで、どうも理解に困って胸を痛めることがしばしばでした。登校拒否、一体何が原因なの



か母として深く考えざるを得ませんでした。息子に問えば「部をやっているのが死ぬほどいやだ」といい「部をやめられないのなら学校へは行かない」というのです。何だか口実のようにも思われたのですが、高校だけは何として卒業させなければと何度か説得の後息子の半分の要求を入れ、部をやめることに同意し、学校を続けることに決めたのです。しかし、それから四、五日もたつと今度は家を出たまま学校へも行かずに同年代の働く仲間の中へ入って二、三日を過ごしていたのです。つれ戻した息子に向かつて、私は大声を出し「あんたのような子は、お母さんも死ぬから死んでしまいなさい」と、彼のほへ平手を打ちつけたのです。一瞬深く考えた事もないただ中身は空っぽの大きなきかない器を息子の顔へ投げつけた思いでした。こんな叱り方ってないと心の奥底で思いながら、その時、何ともそんな事を口走っている自分がひどく情なく思えました。母親とは、こんな時一体どうしたらいいのだろう。私は、学校を続けることを先生に告げたとの事でした。ここには愛情ある先生の説得があった事も書いておかなければなりません。

私はこうして、今明るく通学するようになった息子を見て、人間が人生を転びながら生きていく事実を、一体何がささえていくのかを思います。愛と信頼、現実には、切なくさびしく聞こえる言葉です。しかし、心からさしのべられる愛と信頼の手によって子供は安心して起き上り、その母の願いの通り歩き出すような気がしてなりません。

私もかつて何度かつまずき転んだ時、母親がいかに私をいつくしんで育ててくれた事を思いおこし、立ち上った事でした。

子供にとって人生の道を教え導いて下さるのは、父親であり先生であっても、ただひとすらすら子供を愛し信じる事が出来るのは、母親ではないかと思えます。

非行化される社会に目をそむけるのは私たち母の姿勢ではなく、その事を受けて、悩み苦しむ、真の母の姿をとり

子と一緒にいました。そう歩き出した上で、又明るく生きる道を考えようと思いましたが、そんな夜、次男と部屋を共にする長男が兄弟で話をしていたようでした。

突然大声がして長男のパンチがとんだようでした。兄として弟をたしなめずにはおられなかったようでした。というのは、思えば三年前の長男の高校時代、全く同じような登校拒否の時があったのです。東京へ行って働くという要求でした。あの時も、私は長男と一つ心になり働きたいという長男の心と共に生きる決心をし、子供のしたいようにさせてやろうと、悲しみを心の底へたたみこみ明るく生きる決心をしたのです。その時、どういう心の変化か、

長男は私の決心とは逆に立ち直り、三年間の高校生活をやりとげたのです。今、全く同じことに当たって、母の願いを悲しみを兄の平手かどのように弟のほほに伝えた事か私はこの兄の愛のむちを、心温まる思いでありがとうと心の中で叫びました。次の日、長男の車で学校へ行った次男

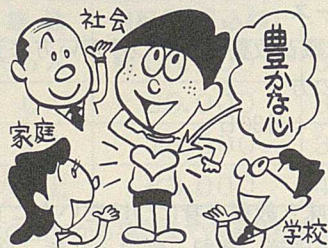
は、学校を続けることを先生に告げたとの事でした。ここには愛情ある先生の説得があった事も書いておかなければなりません。

私はこうして、今明るく通学するようになった息子を見て、人間が人生を転びながら生きていく事実を、一体何がささえていくのかを思います。愛と信頼、現実には、切なくさびしく聞こえる言葉です。しかし、心からさしのべられる愛と信頼の手によって子供は安心して起き上り、その母の願いの通り歩き出すような気がしてなりません。

私もかつて何度かつまずき転んだ時、母親がいかに私をいつくしんで育ててくれた事を思いおこし、立ち上った事でした。

子供にとって人生の道を教え導いて下さるのは、父親であり先生であっても、ただひとすらすら子供を愛し信じる事が出来るのは、母親ではないかと思えます。

非行化される社会に目をそむけるのは私たち母の姿勢ではなく、その事を受けて、悩み苦しむ、真の母の姿をとり



(茨城県PTA連絡協議会
発行・家庭教育実践事例集
「愛の記録」より)

科学万博つくば'85

昭和60年3月17日から9月16日まで、筑波研究学園都市において、国際技術博覧会(科学万博つくば'85)が開催されます。

この前売入場券を、北浦村観光協会(役場産業課内)で販売しています。

発売される入場券のねだんは別表のとおりです。



入場券価格表

券種	前売区分	第1期前売	第2期前売	第3期前売	当日売
		S58.9.17 ~59.2.16	S59.3.17 ~59.8.16	S59.9.17 ~60.1.16	S60.2.17 ~60.9.16
普通入場券	大人	2,160円	2,300円	2,430円	2,700円
	中人	1,120円	1,190円	1,260円	1,400円
	小人	560円	600円	630円	700円

※ 中人とは、満15歳以上23歳未満の方です。

住民税の申告は
所得税の確定申告は

二月十六日からです

昭和五十八年分の住民税の申告・所得税の確定申告は、二月十六日から受け付けが始まります。申告期限は三月十五日ですが、期限間近になりまると申告会場はたいへん混雑します。定められた期日に済ませましょう。(日程表は後日、郵送又は、区長経由で配布されます。)

所得税は、個人が一年間に得た所得に対してかかる税金です。

確定申告をしなければならぬのは、次のような方々です。

- ①事業をしている人、不動産収入のある人、土地や建物を売った人などです。
- ②サラリーマンの方で、二ヶ所以上から給与を受けている人、給与以外の所得が二十万円を超える人——などです。

次のような場合は確定申告をしないと源泉徴収された所得税が戻ってきません。

- ③災害や盗難にあったとき——
- ④住宅を新築したり、新築住宅を購入したとき。
- ⑤入院などで多額の医療費を支払ったとき。

これらの税金の還付金を受け取るための申告は、二月十六日前でも受け付けています。

税額の計算の方法、申告書の書き方などわからない点がありましたら、役場税務課、潮来税務署までおたずねください。



村では、私たちの生活環境の改善と合わせ、北浦や霞ヶ浦の水質浄化をはかることを目的に、生活雑排水処理施設を設置する家庭に対し、工事費の一部に対し補助金を交付しその設置を奨励しています。

台所の排水など、家庭から出る汚水は、その多くが道路の側溝や屋敷内、田畑にそのまま流されている状況です。いわば、汚水のとれ流し状態が多く見受けられます。

これら汚水の「たれ流し」は、北浦や霞ヶ浦の水質を汚す大きな原因になっているばかりでなく私たちの生活環境を悪くしています。

村では、これまで、2年間にわたり、村内で60戸あまりの家庭で、試験的にその処理施設をつくっていただきましたが、家のまわりに汚水ためがなくなったため、悪臭もなくなり、蚊やハエの発生がめっきり少なくなった、汚水問題で近所に気が

ねしなくてもよくなった、などと非常に喜ばれている状況です。

村で推奨する処理施設は、「土壌浄化による処理施設」と呼ばれているもので、一定の土質と面積の土地さえあれば、ほとんどの家庭で設置することができます。しかも費用も、村の補助金を受け自家労力で設置すれば、5人家族で3万3千円程度、連結費用も含めても3万5千円程度で、設置できる見通しです。あなたの家でも、この機会にぜひとも、この処理施設の設置をおすすめします。

この施設を設置する場合の補助金、経費等は、おおむね次のとおりです。申込みは、2月15日までに、役場調査企画室へお願いします。

●補助金、経費等

村補助金は、材料費の2分1以内で、家族数によって多少異なります。次の表を参考にしてください。

家庭雑排水たれ流しをやめよう！

3万5千円で処理施設ができます

家族数	材料費(見込額)	補助金	自己負担材料費
3～5人	約 63,000 円	30,000 円	33,000 円
6人	69,000	34,000	35,000
7人	76,000	35,000	41,000
8人以上	83,000	40,000	43,000

汚水の出口から施設までの連結材料費、施設の設置手間代は含みません。

●工事方法

工事方法は、村で指導しますが、実際の作業は、自家労力でやってください。材料は、全部、家庭までまとめて配達します。

●施設の設置できる場所

- ①土質→粘土、砂地でないこと
- ②地下水→60cm以上深いこと
- ③面積→5人家族で10mの溝2本を掘って工事しますが、完成後は、その上を通路・花だん・駐車場・芝生などとして利用できます。

●原 理

土壌中のバクテリアによって有機物を分解し、浄化された水を地中に拡散させます。汚水は、敷地内で処理され、放流水はなくなります。



県政モニター募集

県では、県民の皆さんの建設的な意見を聞き、県政に反映させることを目的に、「昭和59年度県政モニター」を募集しています。

●募集人員 28人

●応募資格 二十歳以上の方（ただし、公務員・議会議員は除く）

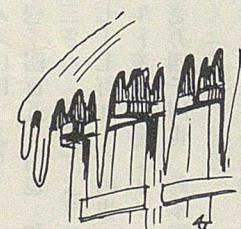
●任期 一年間（59年度）

●申込み締切日 二月二十九日

●モニターの仕事

- ①県の行政に対する意見や要望等の提出。
- ②モニター会議への出席
- ③アンケートへの回答など

役場・調査企画室又は鹿行地方総合事務所総務課（☎34111内線202）へ



老後の生活の支えとなる国民年金は、その値打ちが下がらないように、物価の変動に応じて年金額の増減をスライドで行うなど、給付額の改善が行われています。昨年、国が発表した「今年度は約2%引き上げられ、予定されること。これらのお金は、みなさんから納付される保険料と国庫金などに充てられ、国民年金制度の維持に必要です。国民年金制

国民年金保険料4月から6,220円

総選挙

投票率 82・82%

八十年代後半の政治の動向を占うと言われた衆議院議員総選挙は、昨年十二月十八日に村内八ヶ所の投票所で投票が行われました。投票率は、郡の平均を若干下回ったものの、県平均を大幅に上回る八二・八二%でした。（有権者総数八二〇八人・男四〇三二人、女四一七六

投票区	有権者数	投票者数	投票率
繁昌	1564人	1315人	84.1%
山田	1252	1029	82.2
南高岡	503	435	86.5
小幡	908	757	83.4
行戸	610	511	83.3
小貫	1317	1067	81.0
両宿	1296	1048	80.9
三和	758	636	83.9
計	8208	6798	82.82

候補者別得票数	
葉梨 信行	1,349票
吉田 悟	5
額賀 福志郎	3,842
塚田 延充	254
海野 幹雄	116
狩野 明男	214
天野 等	779
中山 利生	160
石津 政雄	52
無効票	27

NHK学園で通信教育の生徒募集

高等学校：普通科コース

〔NHKの放送（教育テレビ③・ラジオ第2放送）を利用して働きながら高校卒業の資格をとりたい方に〕
入学資格＝中学校卒業・卒業見込み又は同等以上の学力のある方。

受付期間＝3月1日～4月15日

高等学校：教養コース

〔高等学校レベルの知識と教養を身につけたい方に〕
受講資格＝15歳以上の方
受付期間＝3月1日～4月30日

社会通信講座

〔余暇を利用して、趣味と教養を身につけたい方に〕
書道・硬筆・母と子の硬筆・簿記・俳句・文章・絵画・囲碁・英語・数学・国語講座
受講資格＝どなたでも
受付期間＝2月1日～4月20日

……くわしくは、NHK水戸放送局（水戸市大町3-4-4 ☎0292-21-7101）又は、NHK学園案内係（東京都国立市富士見台2-36 ☎0425-72-3155）まで。ハガキには高等学校普通科コース・教養コース、社会通信講座別を記入してください。

「いばらきパビリオン」のアイドルマークを募集
昭和60年に開かれる科学万博「つくば'85」に、県は、「いばらきパビリオン」を出展します。この「いばらきパビリオン」のアイドルマークを募集します。応募資格は県内の小・中・高校生。応募方法：官製ハガキ（私製でも可）の裏にマーク作品（7センチ×7センチの大きさ）一つを黒一色で書いてください。クレヨン・クレパスなどは使わない。締切日：昭和59年2月20日。応募先：水戸市南町3-4-157（水戸セントラルビル9F）国際博覧会局県民運動課アイドルマーク係。

昔ながらのモチツキに大はしやぎ

地域の伝統的行事や、遊びを継承して、その中から子供たちの健やかな成長を願う気運が高まりつつある中で、昔ながらの「うす・きね」を使ったモチツキ大会が幼稚園、中根区、要小学校で行われました。

幼稚園では、昨年十二月十七日PTAのお父さんやお母さんと一緒になって、百四十八人の園児は、昔ながらの「うす・きね」によるモチツキを初体験したあと、さっそくつきたてのきなこ餅に舌づつ



生を中心に部落内の道路添に散乱している空き缶拾いと環境美化に努めるかたわら、一月六日に、区の役員さんをはじめ多くの方々の協力を得てモチツキ大会やたこあげ大会を楽しみました。

また、要小学校でも恒例となった正月おたのしみ大会が一月十四日小雨降る肌寒い中で、PTAや育成会の役員さんが中心となって材料をもち

寄り、百九十六人の元気な子供たちとお父さん、お母さんが一緒になってモチツキ大会やワーホイ小屋の火祭りをを行い、最後に毎日の登下校の時に、道路に散乱している空き缶を回収して作った「空き缶ロボット(きれいな学校きれいな郷土づくりのシンボル)」の除幕式を行い楽しい一日を過ごしました。



▲一足早い正月を迎えた幼稚園児・めずらしいキネでモチツキをする中根区の子供たち
空き缶ロボットの完成を喜ぶ
要小の児童

庁内人事

◎異動

総務課・主幹

菅谷はる子(議会議務局)

・書記

十二月二十一日付

◎退職

方波見俊男(建設課長)

河野 豊(建設課・技手)

十二月三十一日付

ごくろうさまでした。

善意

社会福祉協議会及び村善意銀行へ

○金参万円也 塙 馨さん

(行戸)より

○金貳万円也 人見和子さん

(吉川)より

○金老万参千円也 阿部龍男さん(小貫)より

○金貳万円也 北浦村商工会より

○金貳万円也 飯島正勲さん(行戸)より

○金五万円也 三育教会(成田)より

○金老千貳百六円也 溝口

保さん(山田)より

○金老千四百五十円也 和田慶三さん(両宿)より

○金七千七百九十六円也 ヤクルト茨城工場より

○金老万四千円也 鈴木富貴さん(内宿)より

○金参千円也 小室和さん(北高岡)より

○金老万参千参百六十四円也 山野進男さん(山田)より

○金貳万円也 宮城源造さん(行戸)より

津澄小学校へ

○糸つむぎ機「一台」かぎ

つるし「一台」 沼田吉雄さん(山田)より

○鶏(ちやば「一羽」 真家泰さん(繁昌)より

